

**新城市交通量調査**  
**平成 27 年度業務委託報告書**

**新城市**

## 目 次

1. 調査の概要 .....	1
(1) 調査の目的 .....	1
(2) 調査日時 .....	1
(3) その他 .....	1
(4) 調査箇所 .....	1
2. 交通量調査結果 .....	2
(1) 名号交差点 .....	2
(2) 長篠交差点 .....	6
(3) 有海交差点 .....	10
(4) 杉山北交差点 .....	14
(5) 一鍬田畠中交差点 .....	18
3. 自動車交通量全体図（12時間交通量） .....	22
4. 前年度からの交通流動の変化 .....	24
5. 調査結果のまとめ .....	25

## 1. 調査の概要

### (1) 調査の目的

三遠南信自動車道鳳来峡 I C の開通以降の交通実態を明らかにし、本市の観光振興策を検討するために交通量調査を実施し、結果の分析及び平成 25、26 年度交通量調査結果との比較を行い、新東名高速道路（以後、新東名と略記）及び三遠南信自動車道の開通による、市街地部の自動車交通量への影響を整理した。

### (2) 調査日時

下記の調査日、時間帯で調査を実施した。

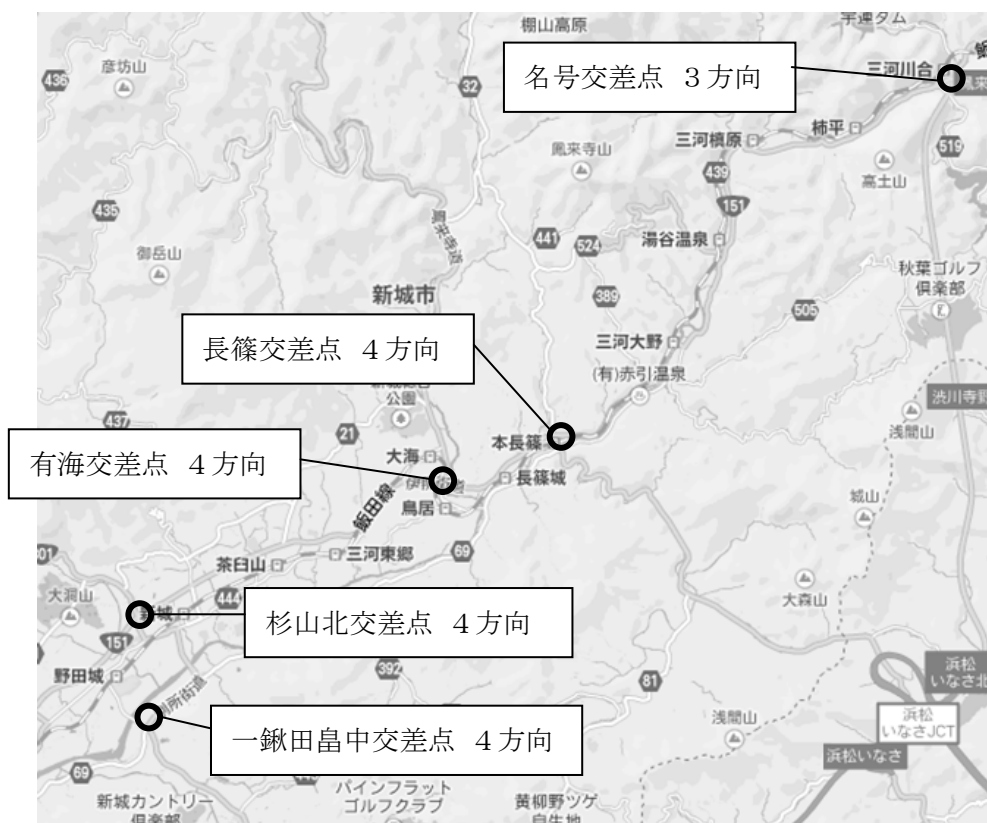
調査日	: 平成 27 年 11 月 27 日 (金)
時間帯	: 7 : 00 ~ 19 : 00
調査時の気候	: 晴れ、最高気温 10.7℃

### (3) その他

調査対象となる車種区分は、小型車、バス、バスを除く大型車、二輪車（自転車含む）の 4 車種とした。

### (4) 調査箇所

調査箇所は下図に示す 5 交差点とした。



(google map より作成)

## 2. 交通量調査結果

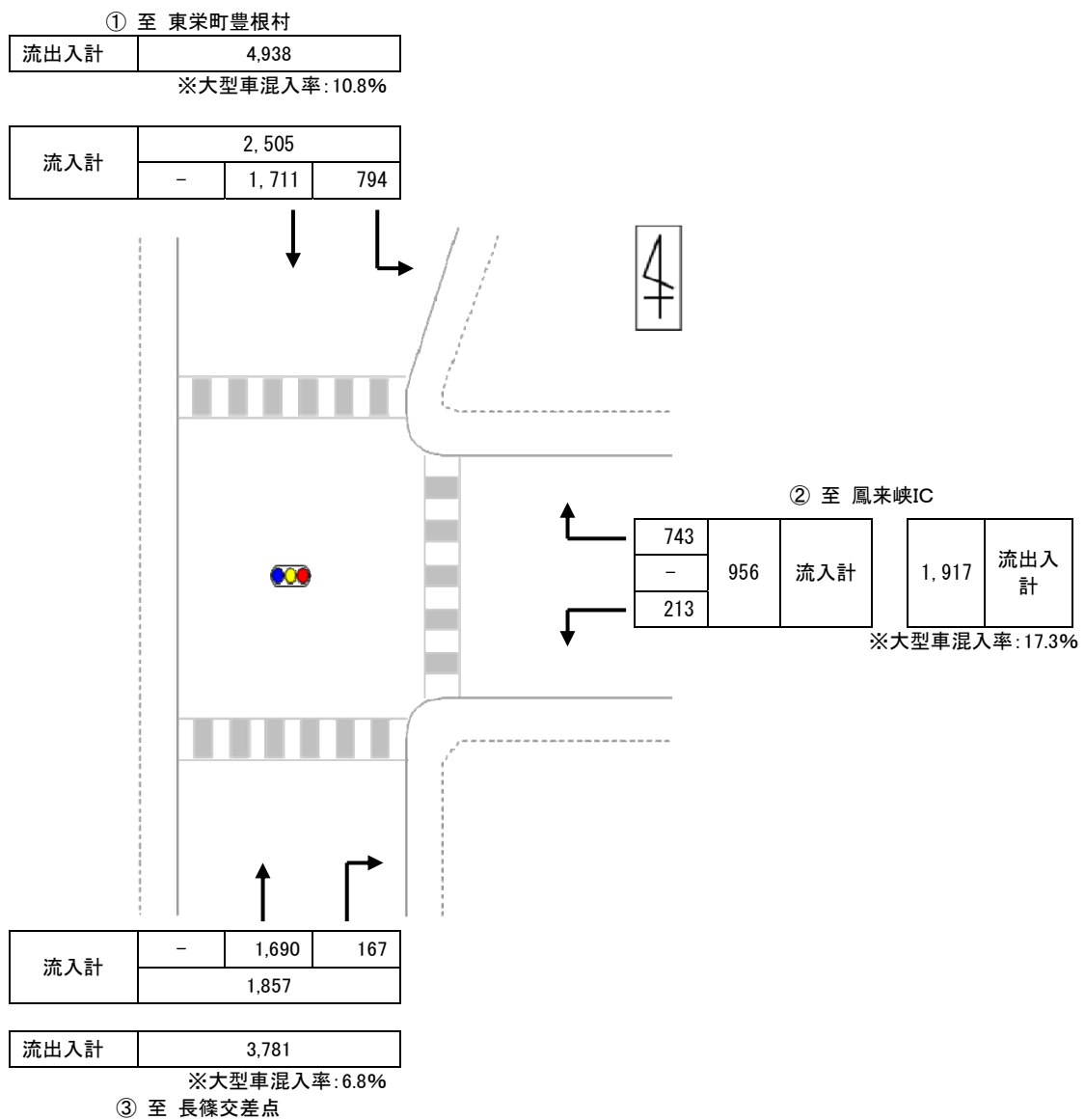
### (1) 名号交差点

#### ■ 方向別交通量現況

自動車の流出入交通量は東栄町豊根村方向(①)は4,938台であった。また、鳳来峡IC方向(②)は1,917台、長篠交差点方向(③)は3,781台であった。

地点ごとの大型車混入率は①は10.8%、②は17.3%、③は6.8%と鳳来峡IC方向は、他の地点と比べて、大型車の占める割合が高い。

#### 【自動車の地点別、方向別交通量の概況】

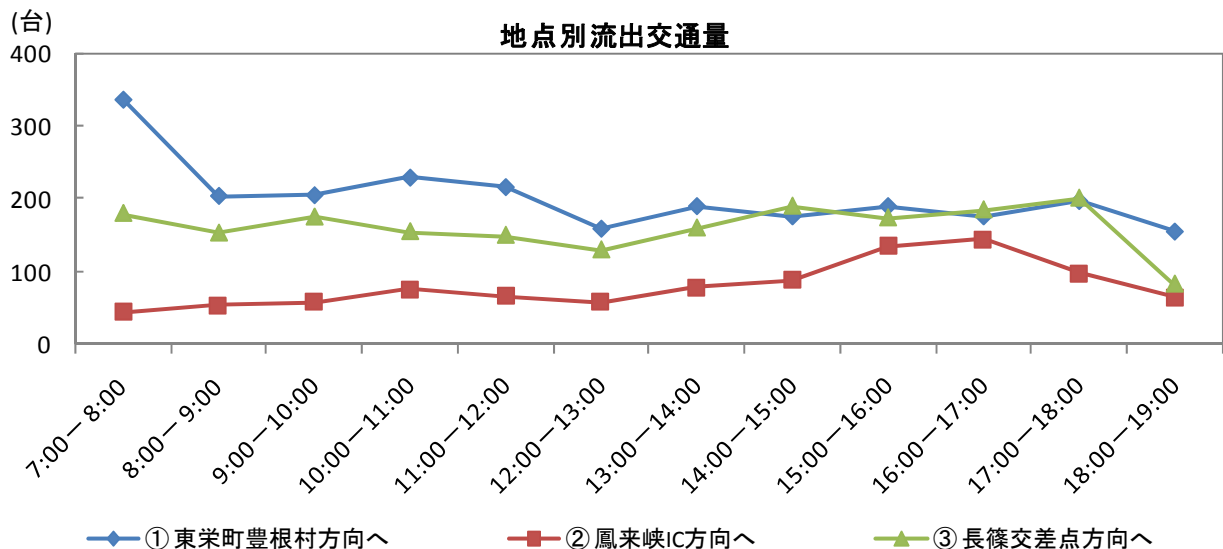
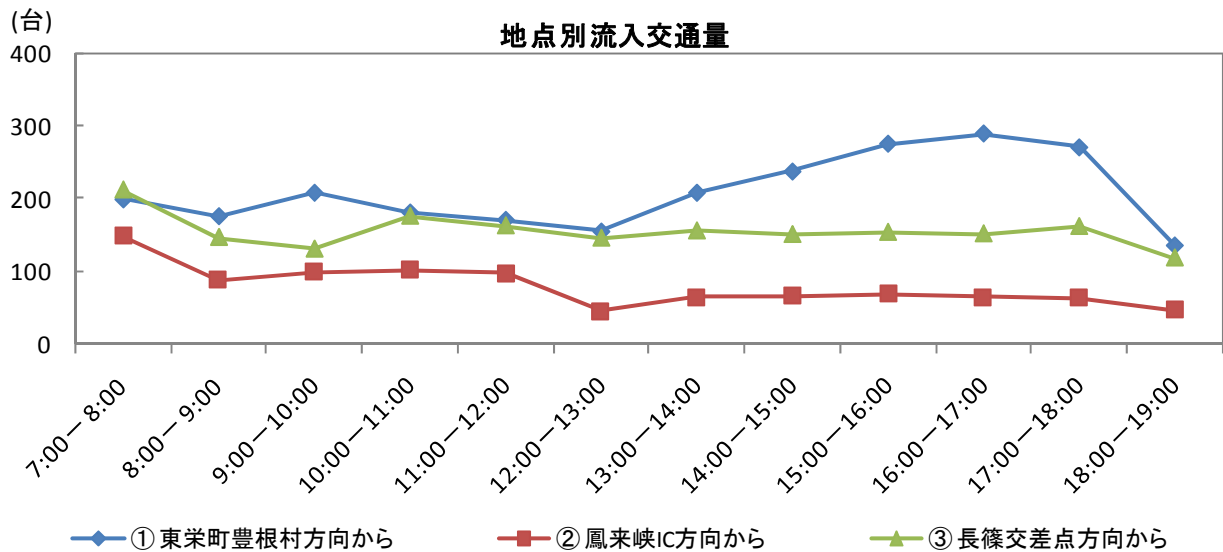


■ 時間帯別方向別自動車交通量

午前は東栄町豊根村方向 (①) への交通が 7:00~8:00 にピークが存在し、鳳来峡 IC 方向 (②) からの流入も 7:00~8:00 にピークがあることから、午前は鳳来峡 IC から来て、東栄町豊根村方向に向かう交通が集中すると考えられる。

午後は、東栄町豊根村方向 (①) からの流入が 14:00~18:00 で多く、鳳来峡 IC 方向 (②) の流出も午後の方が午前よりも多い傾向にあることから、午前とは逆の東栄町豊根村方向から来て鳳来峡 IC へ向かう交通が多いと考えられる。

また、長篠交差点方向 (③) は、他の地点に比べて流入・流出ともに時間帯による変動は小さい。



■ 流出入自動車交通量の変化(過去の調査結果との比較)

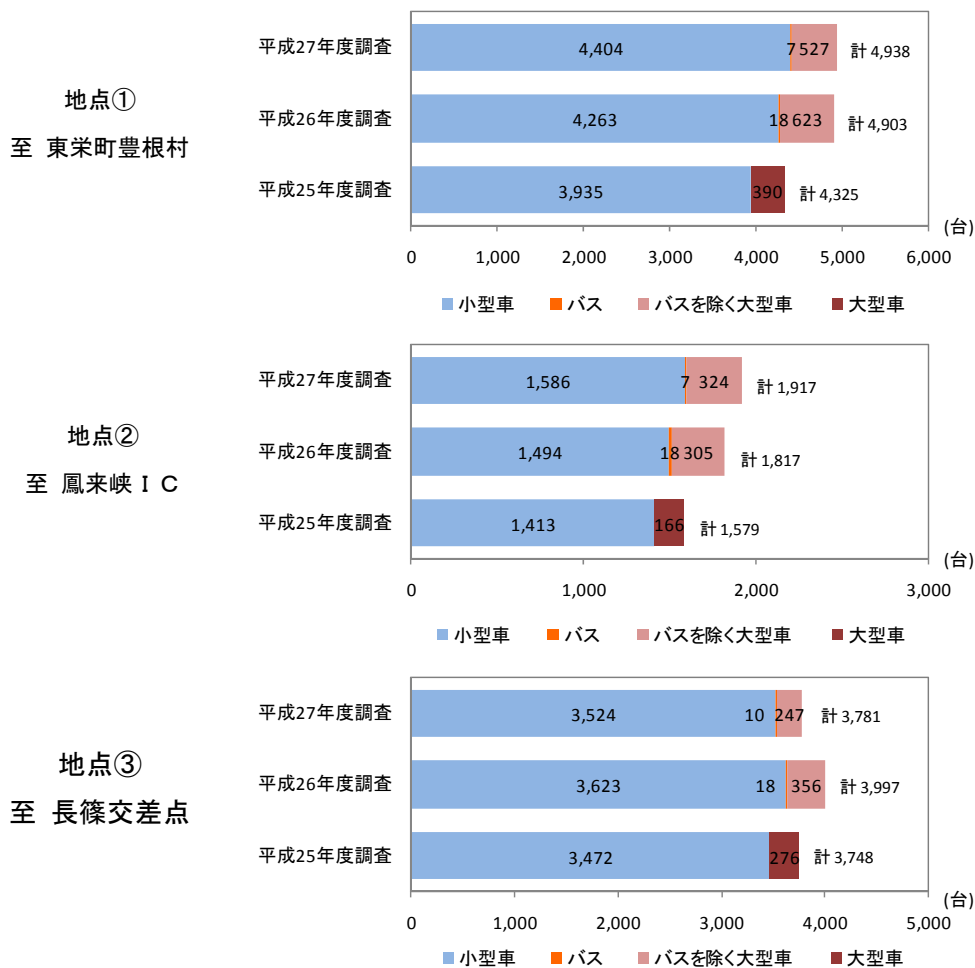
流出入交通量の変化を見ると、東栄町豊根村方向(①)では、平成26年度は平成25年度と比べて約580台増加した、平成27年度は平成26年度と同程度の交通量となっている。

鳳来峡IC方向(②)では、平成26年度は平成25年度と比べて、238台増加した。平成27年度は平成26年度に比べて100台増加した。

長篠交差点方向(③)では、平成26年度は平成25年度と比べて249台増加したが、平成27年度は減少し、平成25年度と同程度となった。

大型車は、平成27年度は平成26年度と比べて東栄町豊根村方向(①)が増加し、長篠交差点方向(③)が減少している。

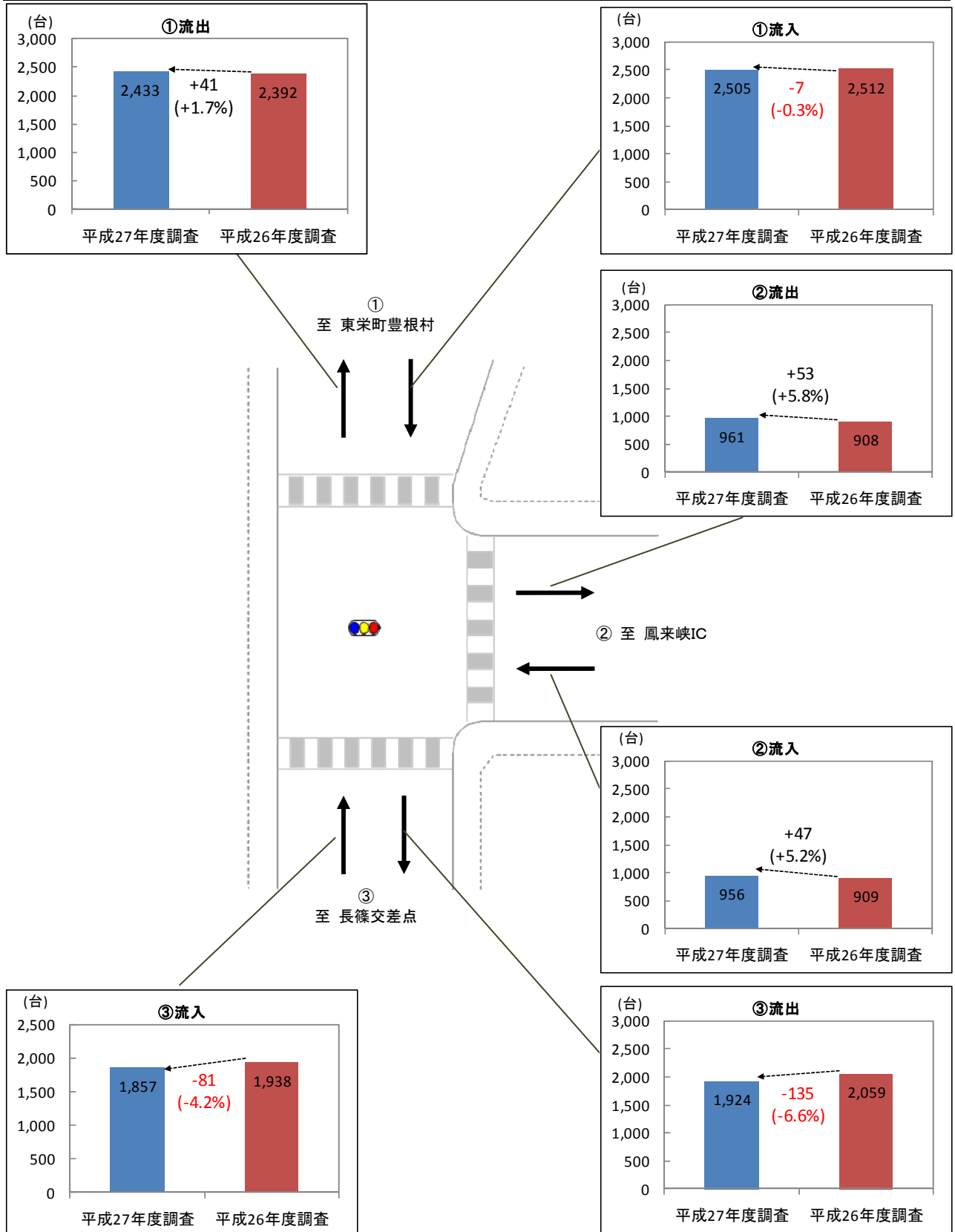
また、バスの交通量は全ての地点で減少している。



■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

平成26年度と比較して、東栄町豊根村方向(①)と鳳来峡IC方向(②)では、増減が±50程度にとどまり、大きな変化はなかった。

平成26年度と比較して、長篠交差点方向(③)では、流入が81台、流出が135台と微減した。



## (2) 長篠交差点

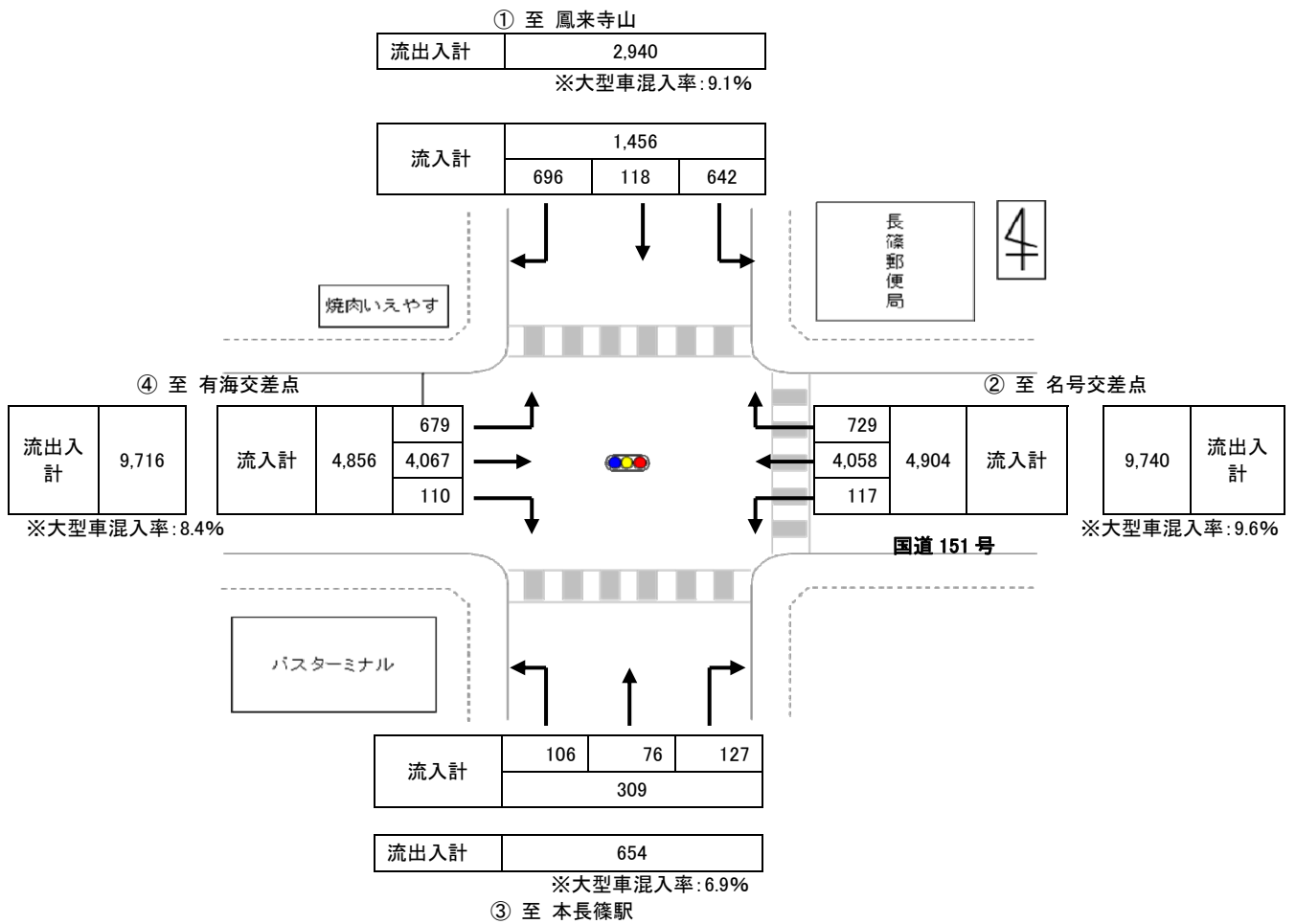
### ■ 方向別交通量現況

自動車の流出入交通量は鳳来寺山方向 (①) で 2,940 台、名号交差点方向 (②) は 9,740 台、本長篠駅 (③) は 654 台、有海交差点方向 (④) は 9,716 台であった。

大型車混入率は、①は 9.1%、②は 9.6%、③は 6.9%、④は 8.4%であった。

車種にかかわらず、国道 151 号を通る東西方向の交通量が多い。

### 【自動車の地点別、方向別交通量の概況】





## ■ 時間帯別方向別自動車交通量

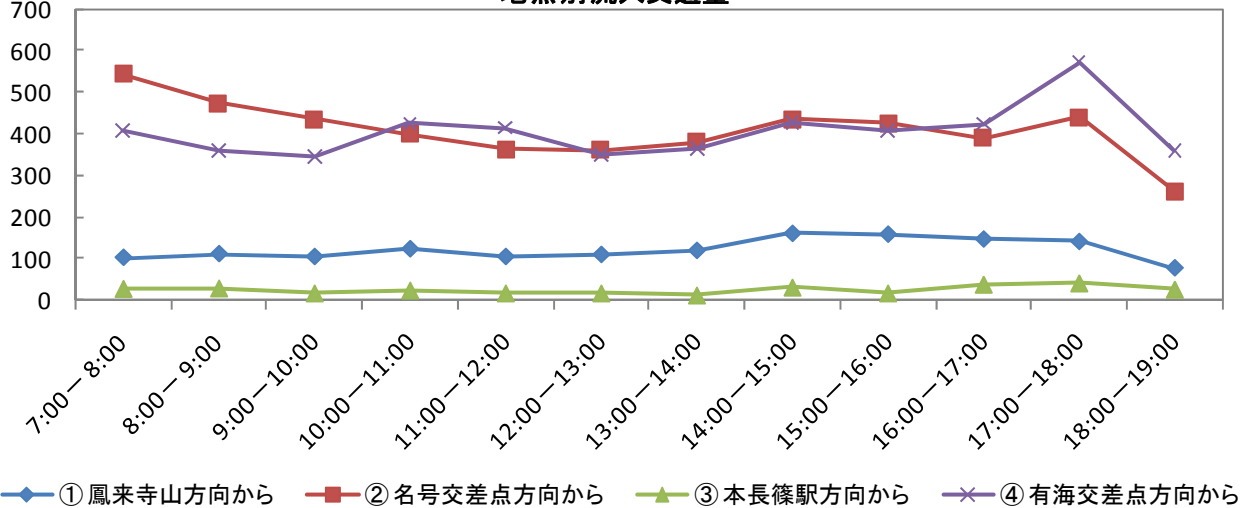
時間帯別の流入交通量をみると、名号交差点方向（②）からの流入と有海交差点方向（④）への流出の推移は午前、午後のピーク等、形状が類似しており、また、名号交差点方向（②）への流出と有海交差点方向（④）からの流入の推移も形状が類似している。

一方で、鳳来寺山方向（①）と本長篠駅方向（③）では、流入・流出交通量は、名号交差点方向（②）や有海交差点方向（④）に比べて小さく、かつ時間帯別の変動も小さい。

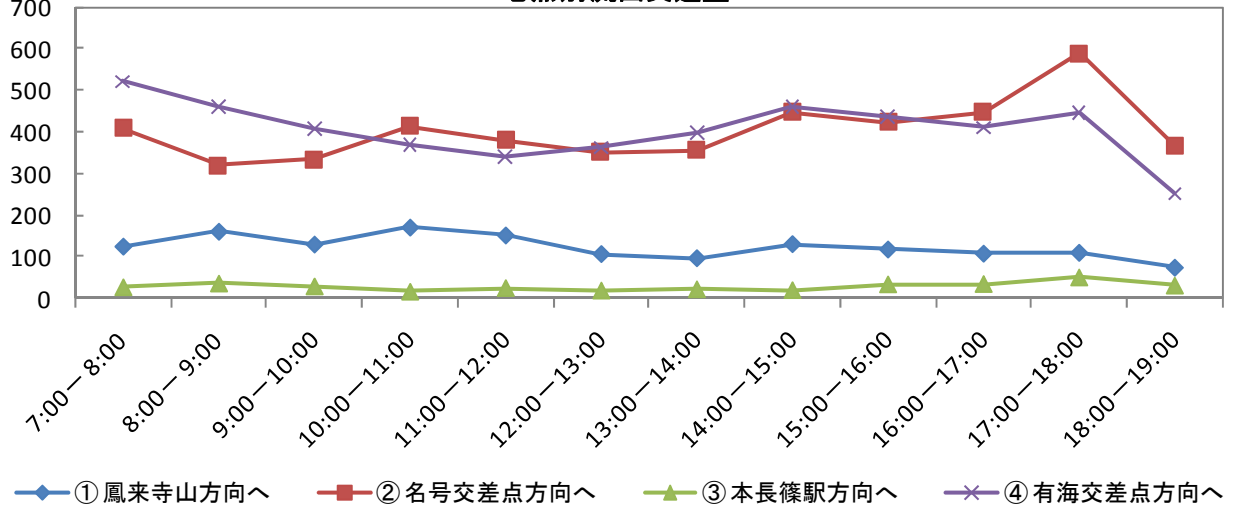
これらのことから、長篠交差点を通過する交通は国道 151 号を通る、東西方向の交通が主であると考えられる。

加えて、ピーク時間帯の傾向から、ピーク時は、東から西に向かう交通では通勤目的の交通が多く、西から東に向かう交通では帰宅目的の交通が多いものと考えられる。

(台) 地点別流入交通量



(台) 地点別流出交通量



■ 流出入自動車交通量の変化(過去の調査結果との比較)

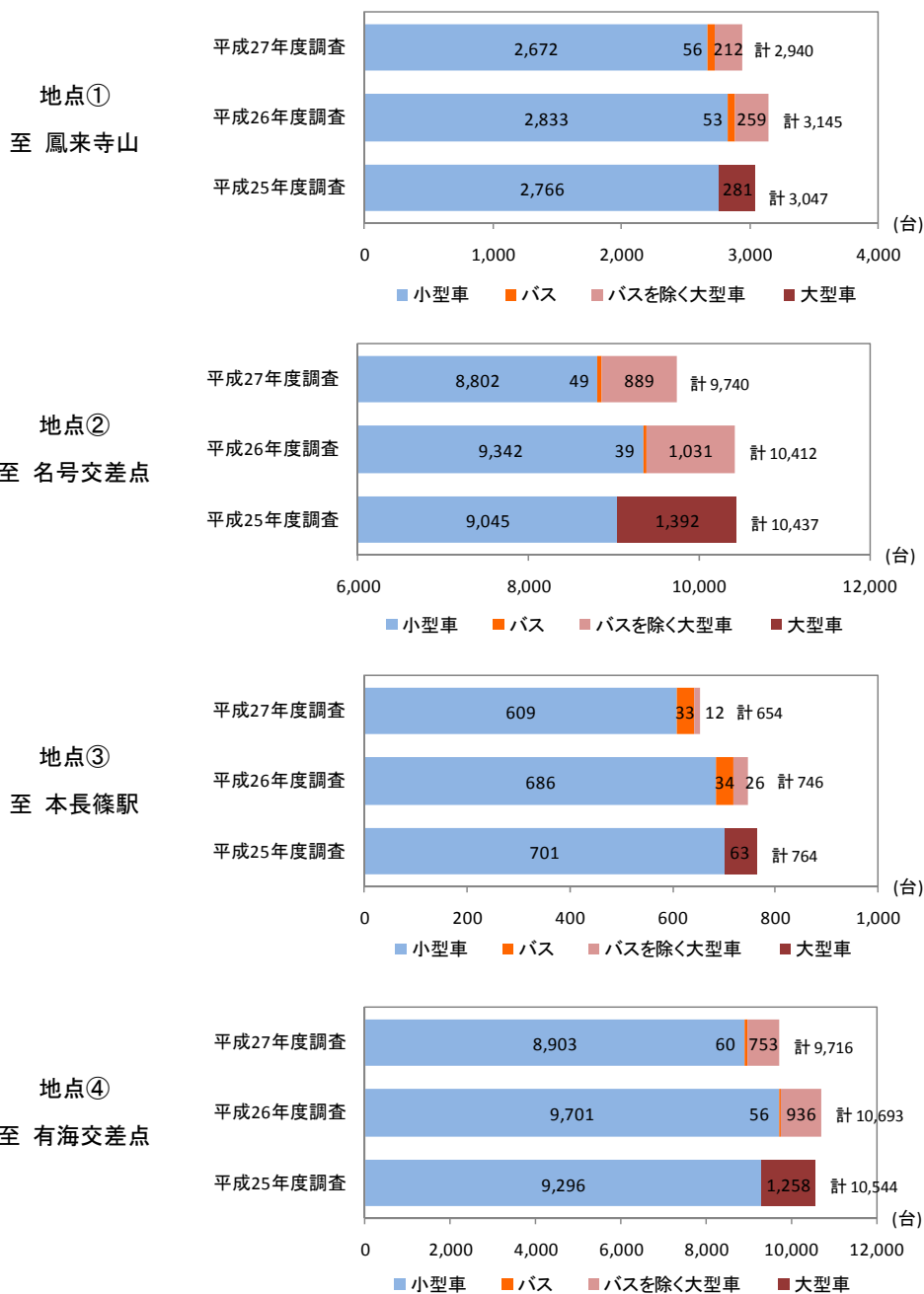
鳳来寺山方向(①)では、平成26年度は平成25年度に比べて98台増加したが、平成27年度は平成26年度に比べて205台減少し、平成25年度よりも少なくなった。

名号交差点方向(②)では、平成26年度と平成25年度は同程度であったのに対して、平成27年度は平成26年度に比べて、672台減少した。

本長篠駅方向(③)では、平成26年度と平成25年度は同程度であったのに対して、平成27年度は平成26年度に比べて、92台減少した。

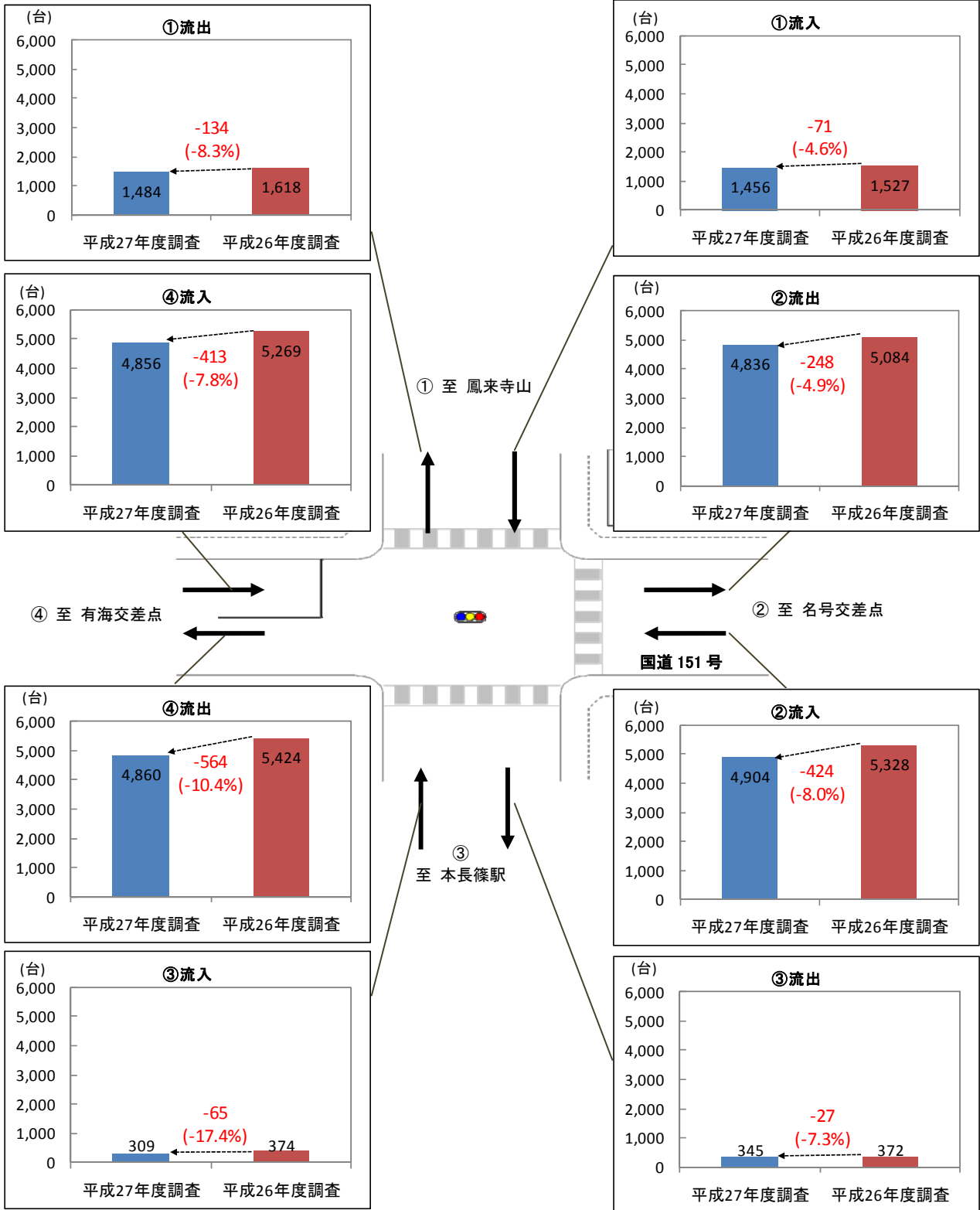
有海交差点方向(④)では、平成26年度は平成25年度に比べて149台増加したが、平成27年度は平成26年度に比べて977台減少し、平成25年度よりも少なくなった。

バスは、名号交差点方向(②)の交通量が10台増加した。



■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

地点や流入・流出を問わず、交通量が減少した。



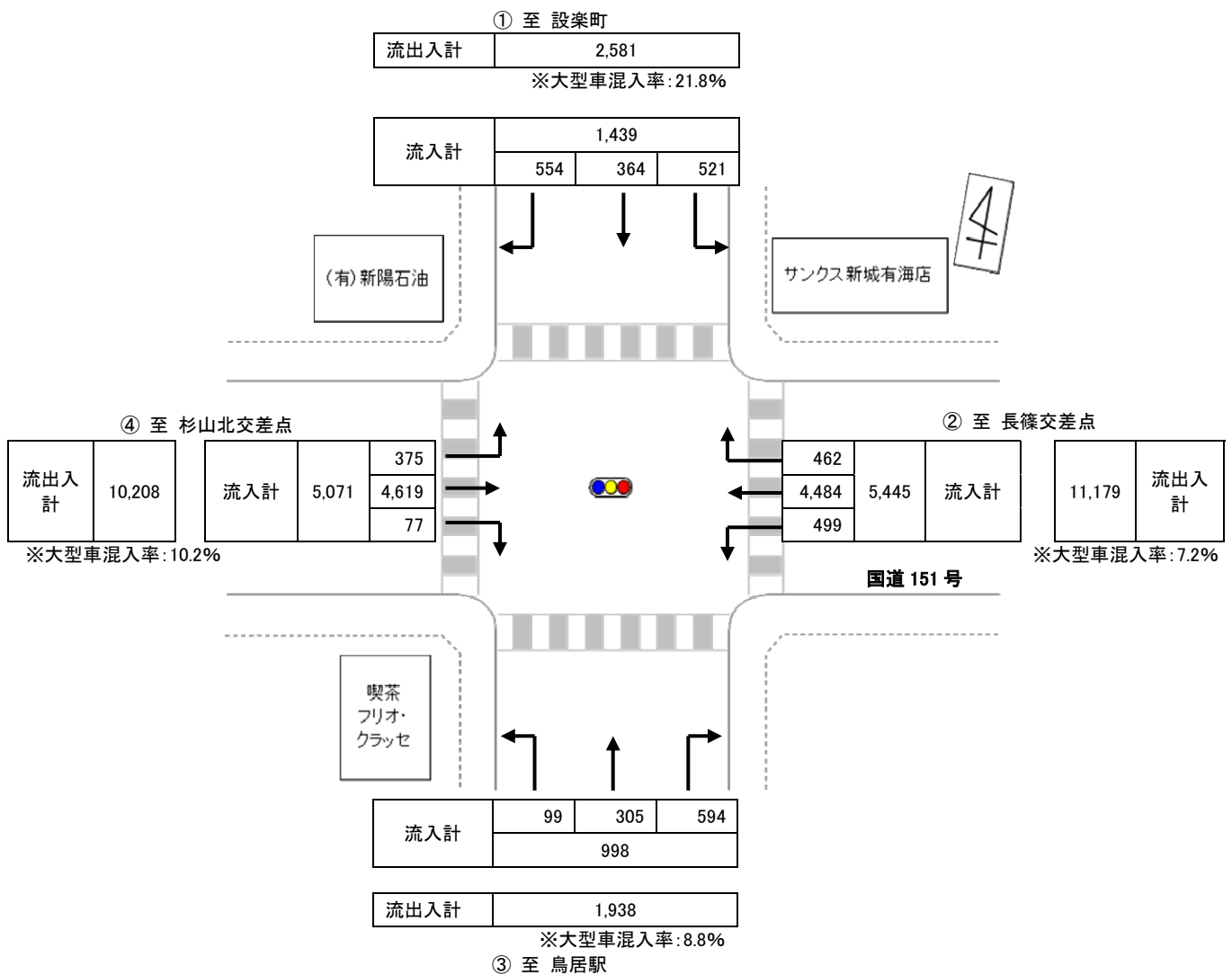
### (3) 有海交差点

#### ■ 方向別交通量現況

自動車の流出入交通量は設楽町方向 (①) は 2,581 台であった。長篠交差点方向 (②) は 11,179 台であった。鳥居駅方向 (③) は 1,938 台であった。杉山北交差点方向 (④) は 10,208 台であった。大型車混入率は①は 21.8%、②は 7.2%、③は 8.8%、④は 10.2%であり、設楽町方向が他より高い。

全体としては、国道 151 号を利用する交通が多い。

#### 【自動車の地点別、方向別交通量の概況】

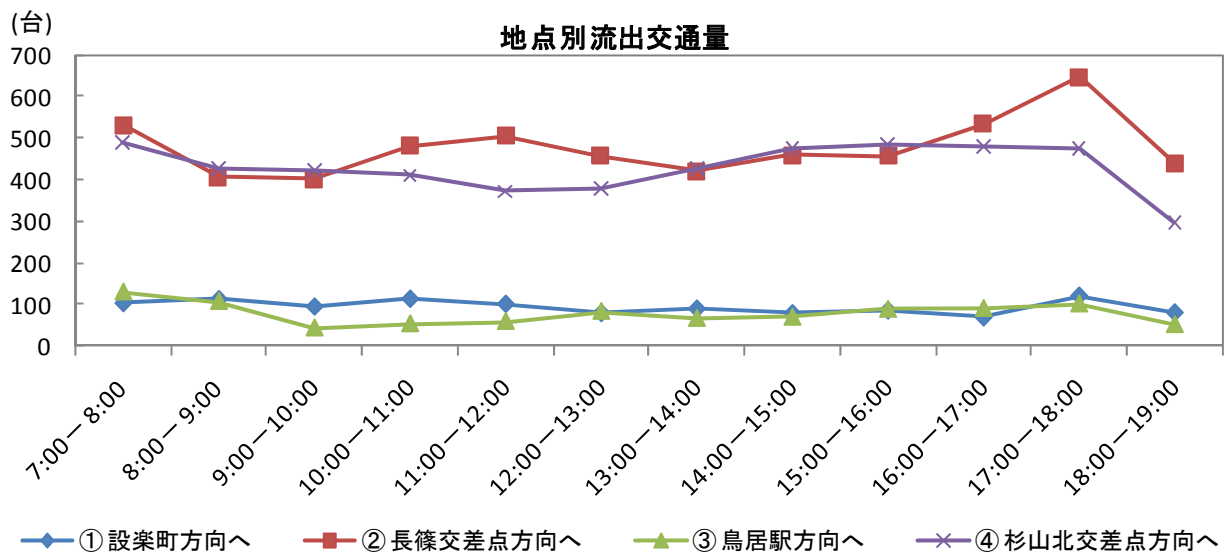
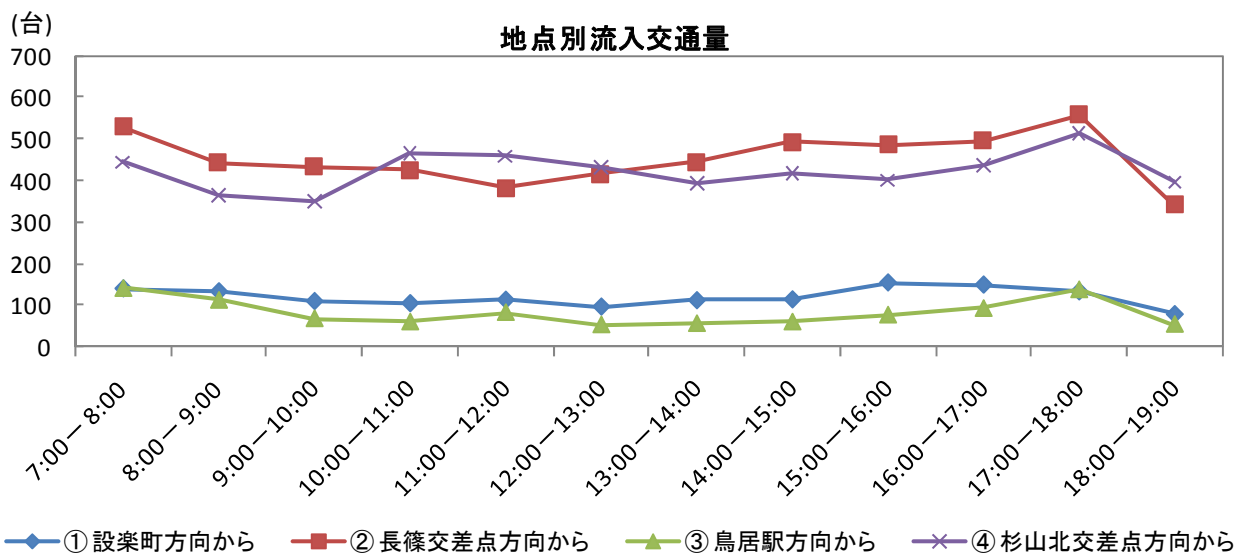


■ 時間帯別方向別自動車交通量

時間帯別の流入交通量をみると、長篠交差点方向（②）からの流入と杉山北交差点方向（④）への流出の推移は、形状が類似している。また、杉山北交差点方向（④）からの流入と長篠交差点方向（②）への流出の推移は 16:00～18:00 を除き、杉山北交差点方向（④）からの流入と類似している。

一方で、設楽町方向（①）と鳥居駅方向（③）は長篠交差点方向（②）や杉山北交差点方向（④）に比べて時間帯別の変動は小さい。

16:00～18:00 の長篠交差点方向（②）への流出交通量は特に多く、杉山北交差点方向（④）からの流入よりも高い値になっていることから、設楽町方向（①）や鳥居駅方向（③）から長篠交差点方向（②）へ向かう交通も 16:00～18:00 には多いものと考えられる。



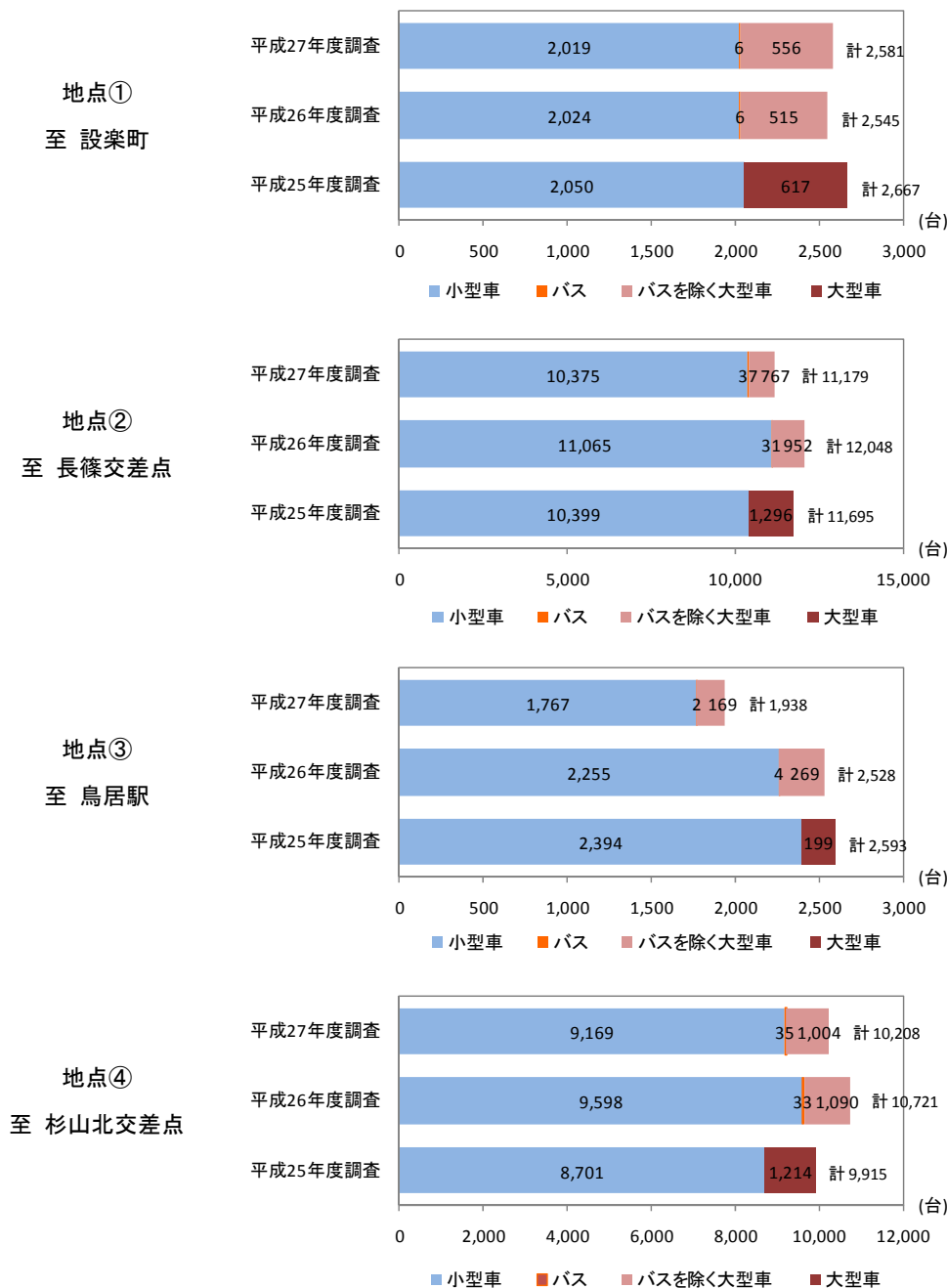
■ 流出入自動車交通量の変化(過去の調査結果との比較)

設楽町方向(①)では、平成26年度は平成25年度に比べて122台減少し、平成27年度は平成26年度と同程度であった。

長篠交差点方向(②)では、平成26年度は平成25年度に比べて、353台増加したが、平成27年度は平成26年度と比べて、869台減少し、平成25年度よりも少なくなった。

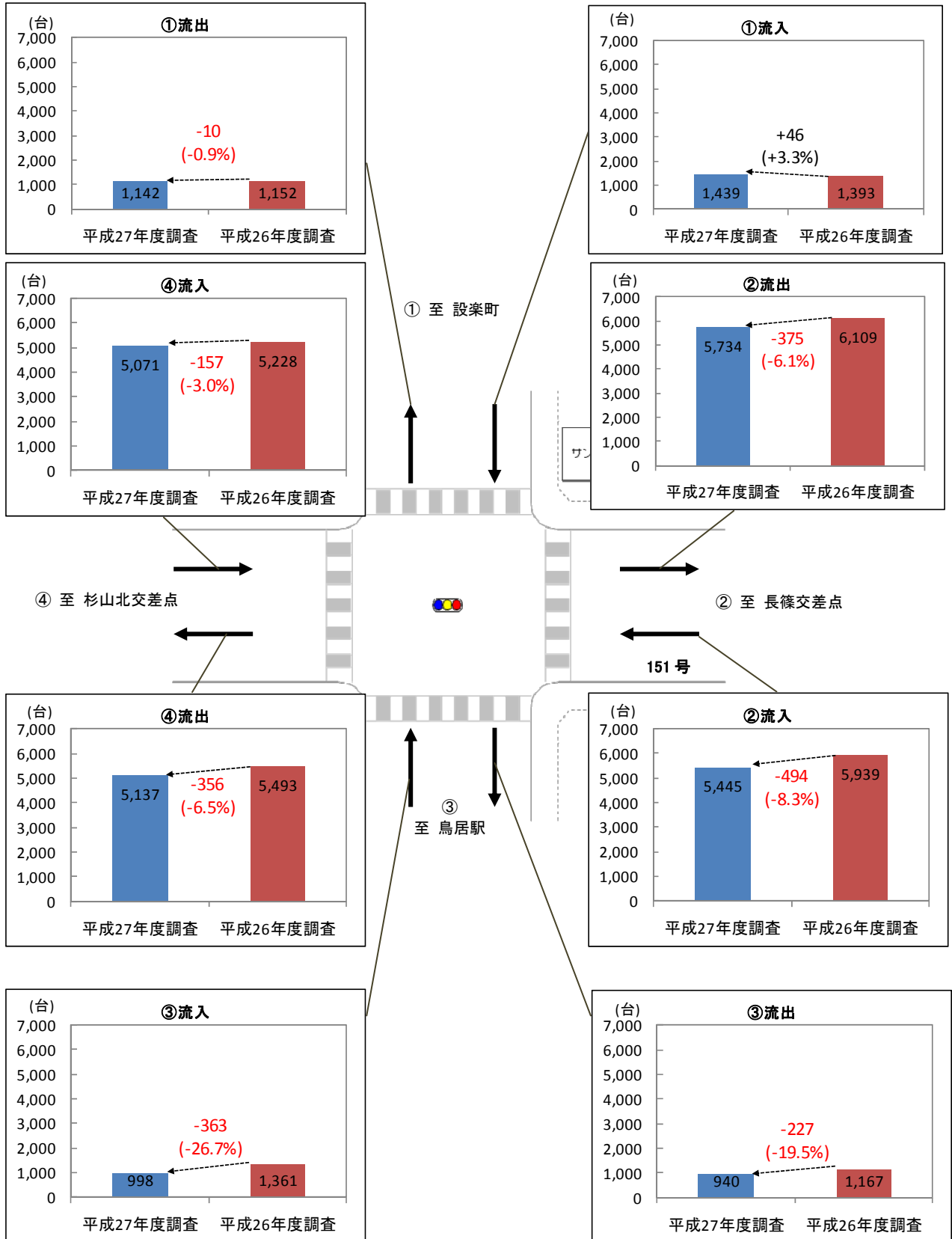
鳥居駅方向(③)では、平成26年度は平成25年度は同程度の交通量であったのに対して、平成27年度は平成26年度と比べて、590台減少した。

杉山北交差点方向(④)では、平成26年度は平成25年度に比べて、806台増加したが、平成27年度は平成26年度と比べて、513台減少した。



■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

設楽町方向(①)からの流入を除き、前年度と比べて減少している。  
特に長篠交差点方向(②)と鳥居駅方向(③)の交通量は流入・流出ともに大きく減少している。

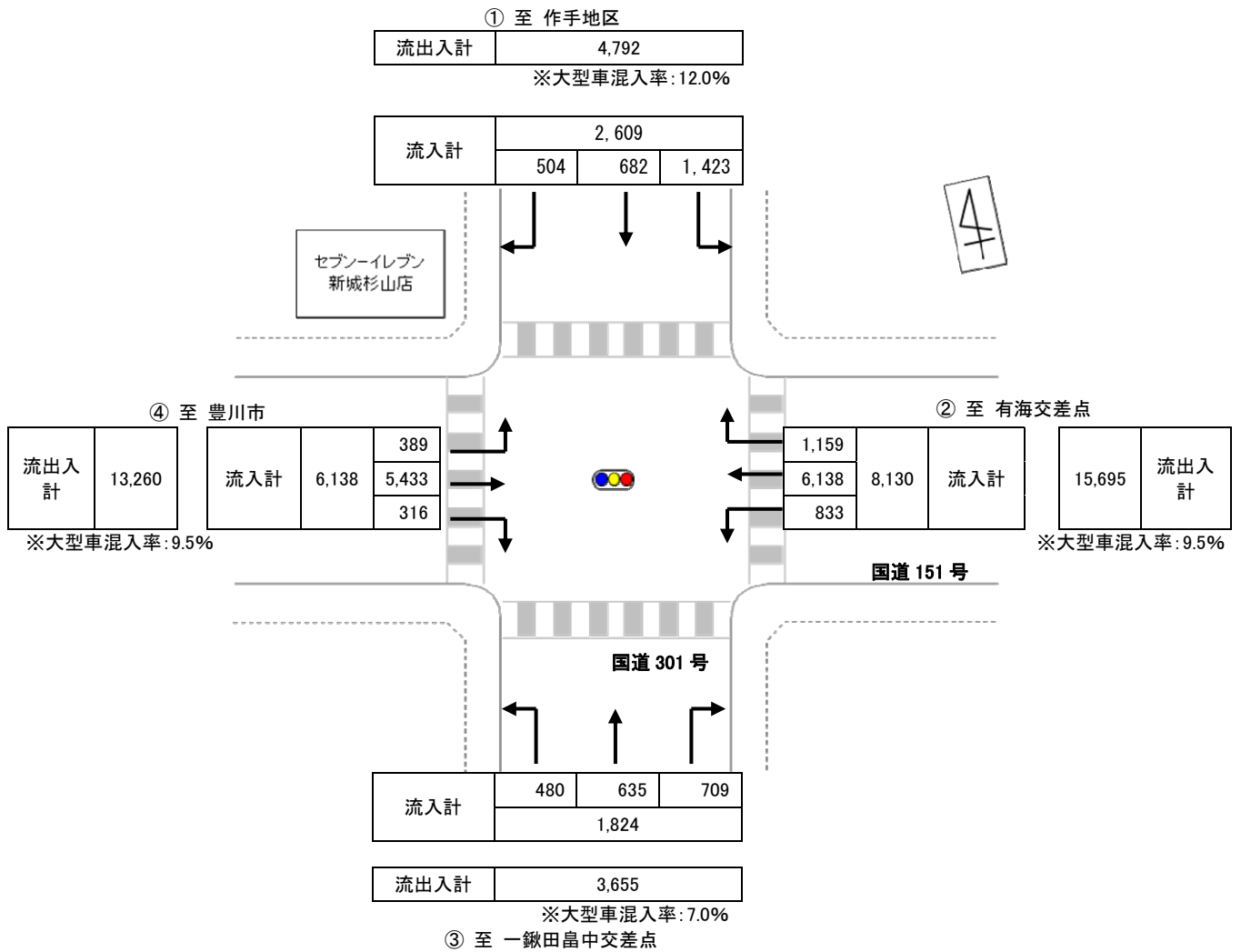


#### (4) 杉山北交差点

##### ■ 方向別交通量現況

自動車の流出入交通量は、作手地区方向が(①)は4,792台であった。有海交差点方向(②)は15,695台、一鍬田畠中交差点方向(③)は3,655台、豊川市方向(④)は13,260台であった。大型車混入率は①は12.0%、②は9.5%、③は7.0%、④は9.5%であった。車種にかかわらず、国道151号を通る東西方向の交通量が多い。

##### 【自動車の地点別、方向別交通量の概況】





## ■ 時間帯別方向別自動車交通量

時間帯別の流入交通量をみると、午前は7:00～8:00の有海交差点方向(②)への流出が810台と特に多い。午後は有海交差点方向(②)からの流入が他の地点より多い。

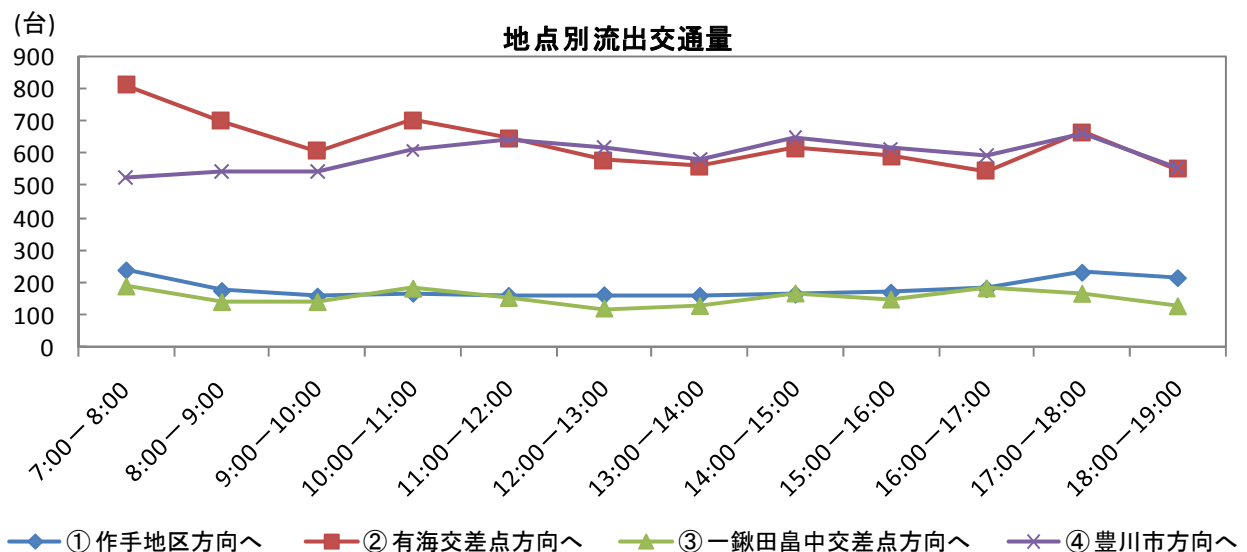
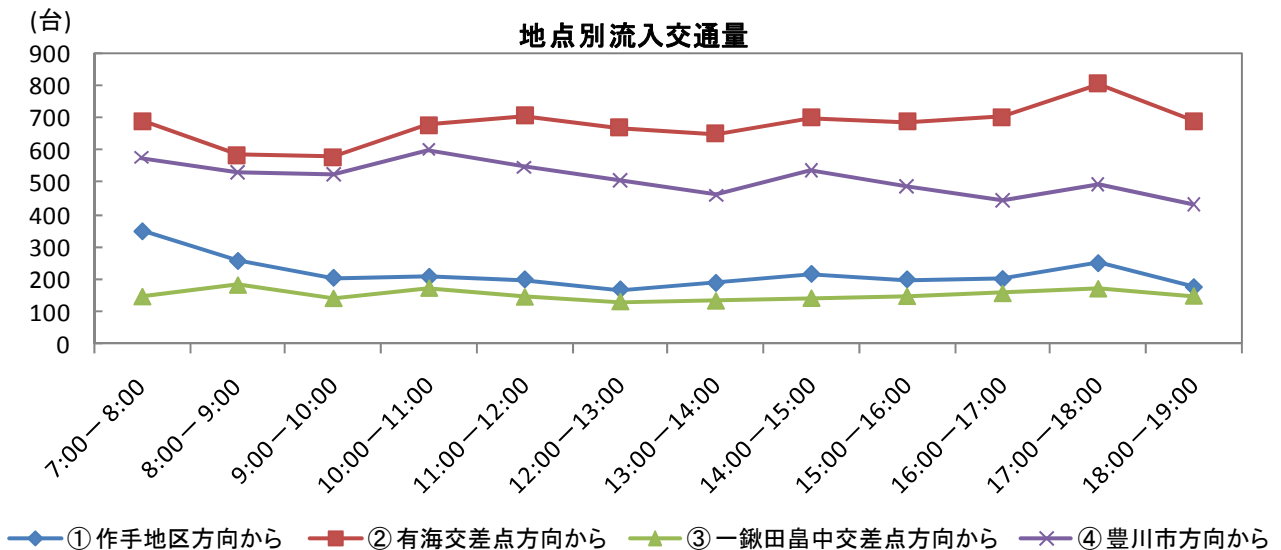
豊川市方向(④)からの流入は午前は大きな変動はなく、500～600台程度にとどまっており、全ての時間帯で、有海交差点方向(②)への流出より少ない。

同様に、全ての時間帯で豊川市方向(④)への流出は、有海交差点方向(②)からの流入よりも少ない。

作手地区方向(①)は、流入・流出ともにどの時間帯も豊川市方向(④)よりも少ないが、7:00～8:00の流入が突出して多い。

一畝田畠中交差点方向(③)は、流入・流出ともにどの時間帯も豊川市方向(④)よりも少なく、時間帯による変動も他の地点と比べて小さい。

以上のことから、午前は豊川市や作手地区などから、新城市街方面に向かい、午後は逆に戻る交通が多いと考えられる。



■ 流出入自動車交通量の変化(過去の調査結果との比較)

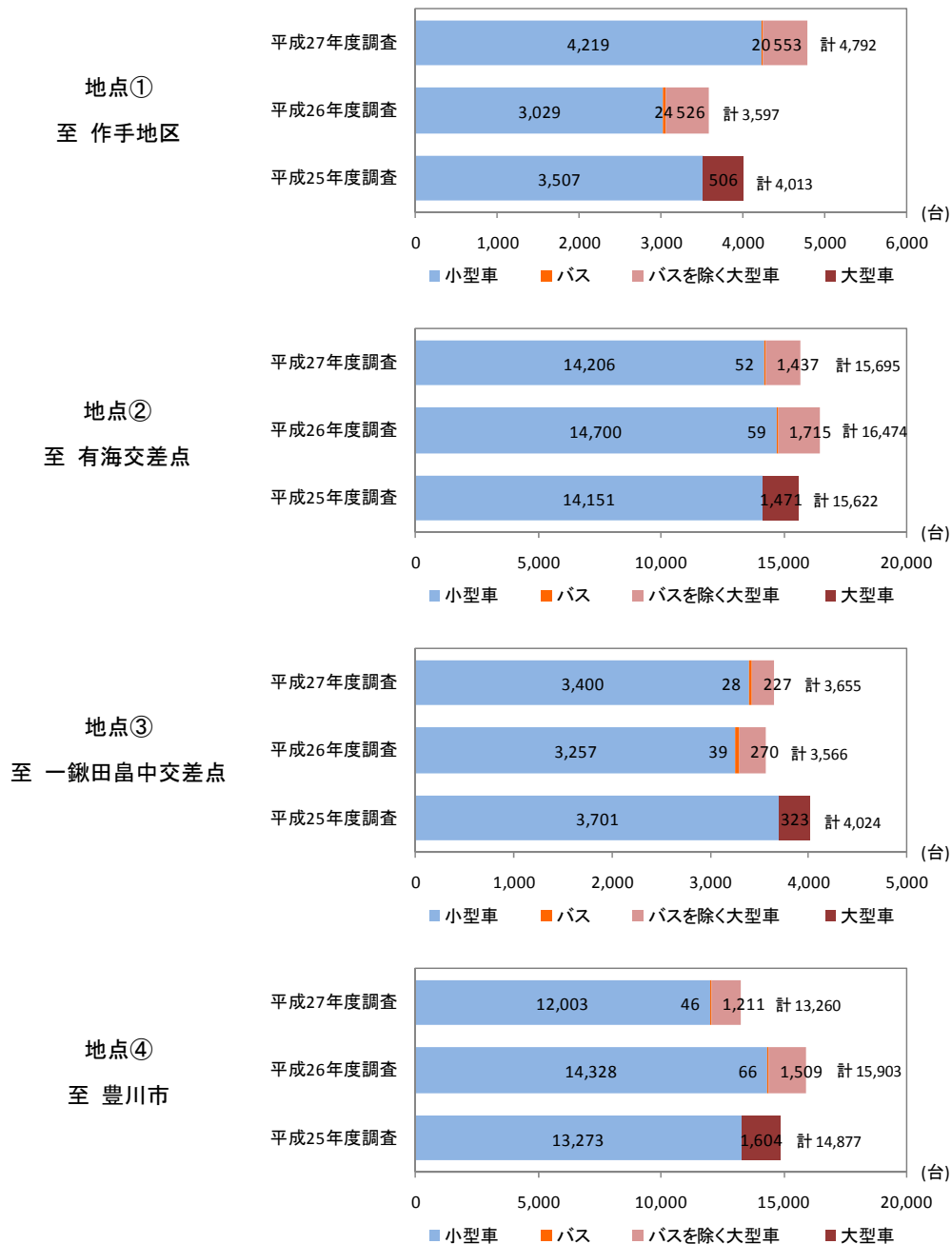
作手地区方向は(①)では、平成26年度は平成25年度に比べて、416台減少したが、平成27年度は平成26年度に比べて、1,195台と大幅に増加し、平成25年度よりも多くなった。

有海交差点方向(②)では、平成26年度は平成25年度に比べて、852台増加したが、平成27年度は平成26年度に比べて、779台減少し、平成25年度と同程度になった。

一鍬田畠中交差点方向(③)では、平成26年度は平成25年度に比べて、458台減少し、平成27年度は平成26年度と同程度になった。

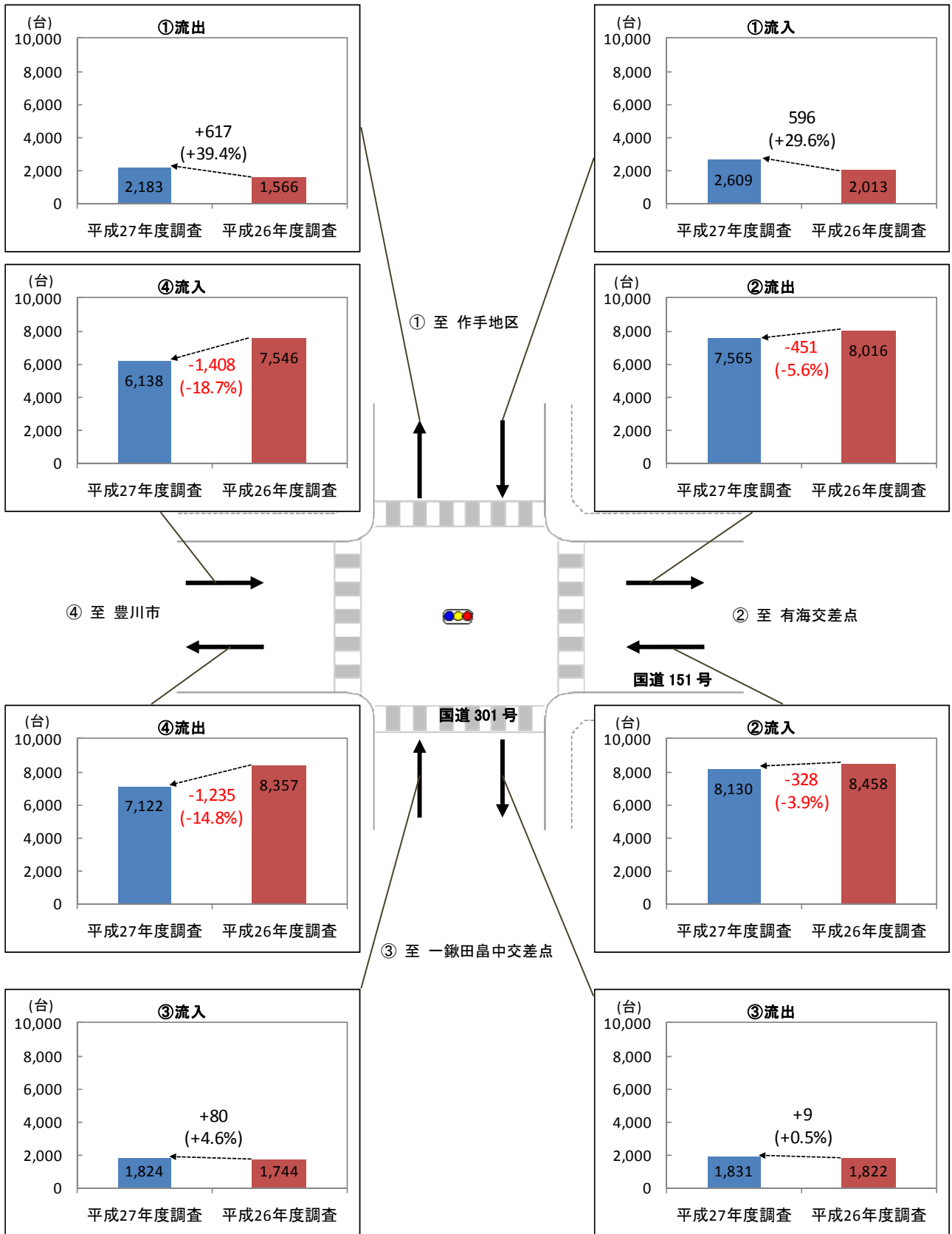
豊川市方向(④)では、平成26年度は平成25年度に比べて、1,026台増加したが、平成27年度は平成26年度に比べて、2,643台減少した。

バスの交通量は、平成27年度は平成26年度に比べて、一鍬田畠中交差点方向(③)が11台減少し、豊川市方向(④)が20台減少するなど大きく減少した。



■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

北方向の交通量が増加し、東西方向の交通量が減少している。  
特に、豊川市方向(④)の交通量の減少と、作手地区方向(①)の交通量の増加が顕著である。



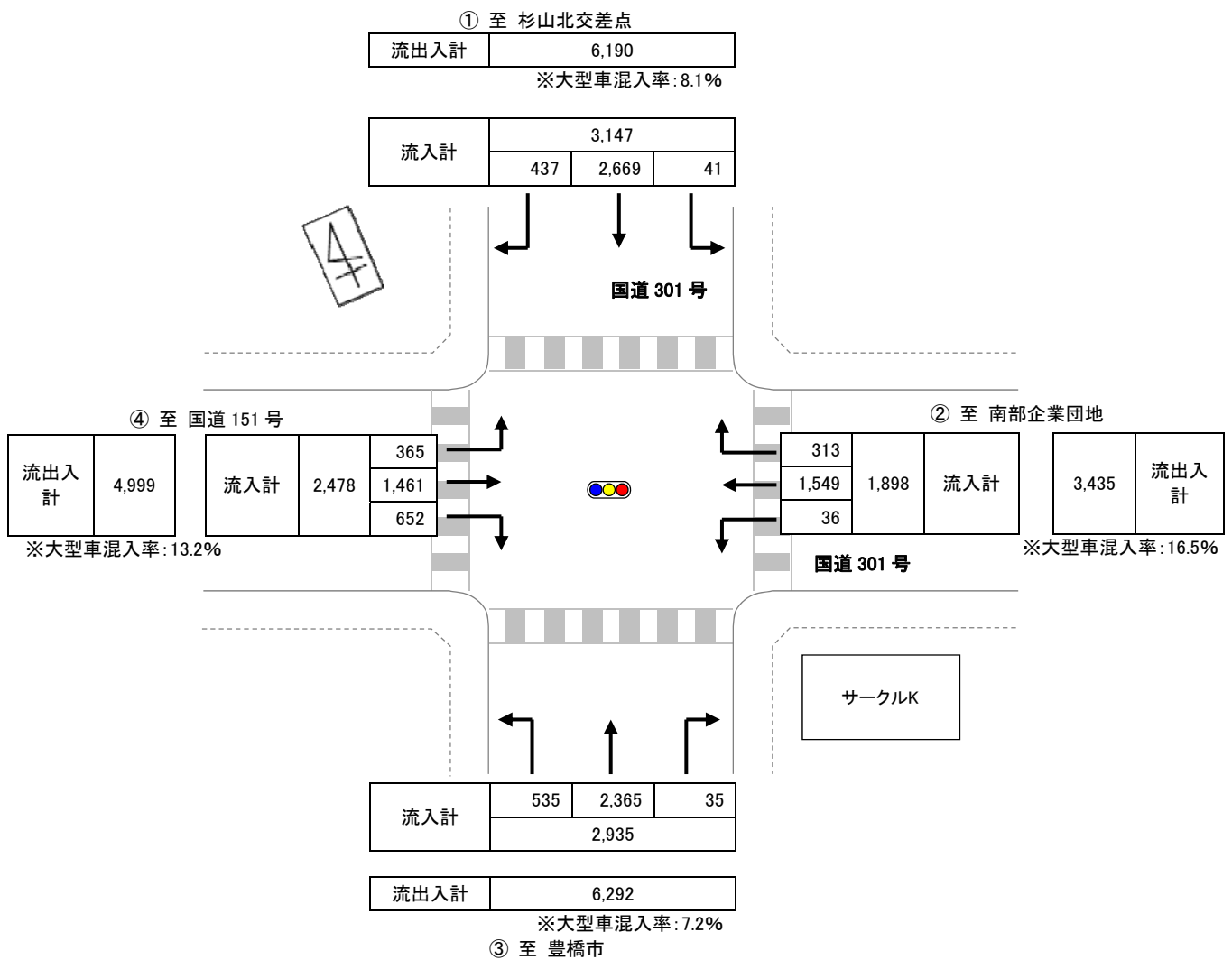
(5) 一鍬田畠中交差点

■ 方向別交通量現況

自動車の流出入交通量は、杉山北交差点方向(①)が6,190台、南部企業団地方向(②)が3,435台、豊橋市方向(③)が6,292台、国道151号方向(④)が4,999台であった。

大型車混入率は①は8.1%、②は16.5%、③は7.2%、④は13.2%であった。

【自動車の地点別、方向別交通量の概況】



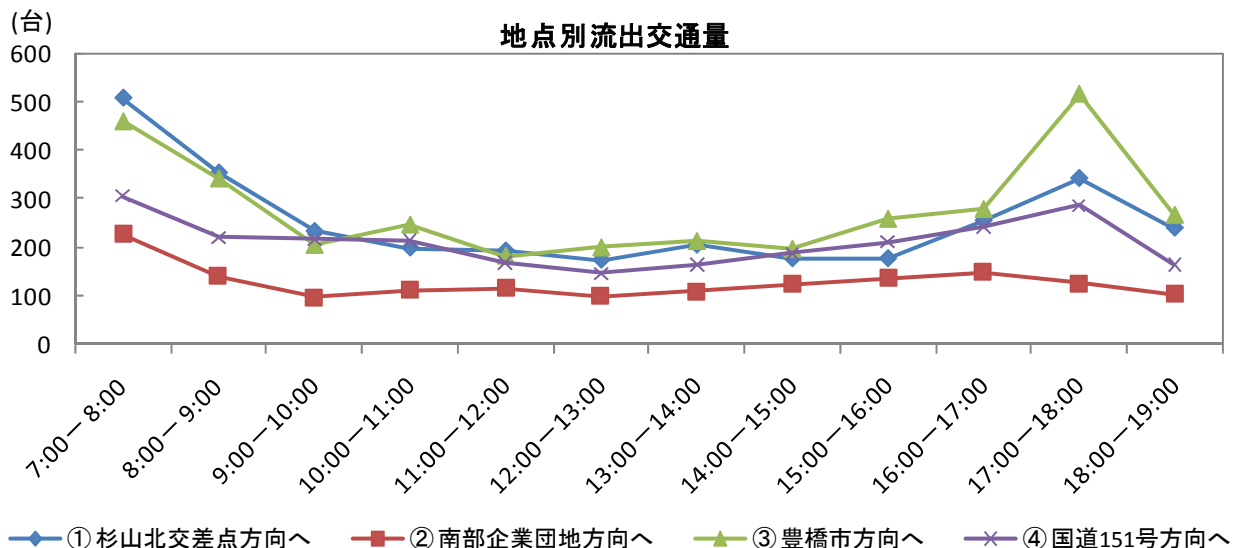
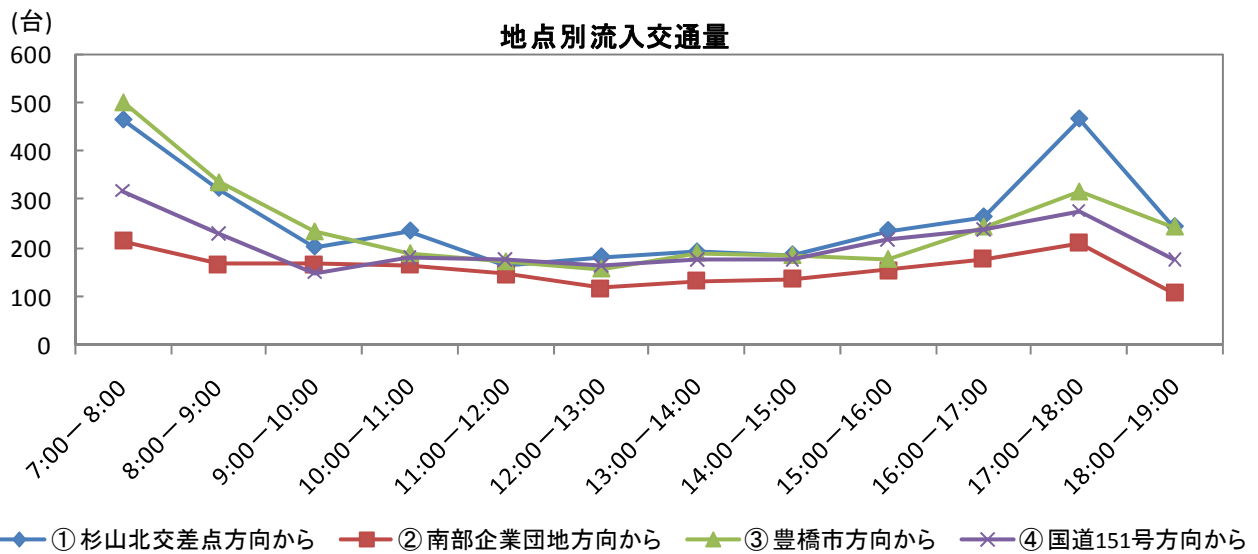
■ 時間帯別方向別自動車交通量

午前はどの方向も流入・流出ともに7:00~8:00にピークがある。また、流入・流出ともに午後は南部企業団地方向(②)からの流出を除き、17:00~18:00にピークがある。

このことから、交通の方向によらず朝、夕に交通量が集中する場所だと考えられる。

また、杉山北交差点方向(①)からの流入と豊橋市方向(③)への流出交通量の交通量は他の地点や方向と比べても多く、推移の形状が類似しており、杉山北交差点方向から豊橋市へ向かう交通が主であると考えられる。

南部企業団地方向(②)からの流出が午前の7:00~8:00のピークを除き少ない理由は、通勤目的の交通が主であるためだと考えられる。



■ 流出入自動車交通量の変化(過去の調査結果との比較)

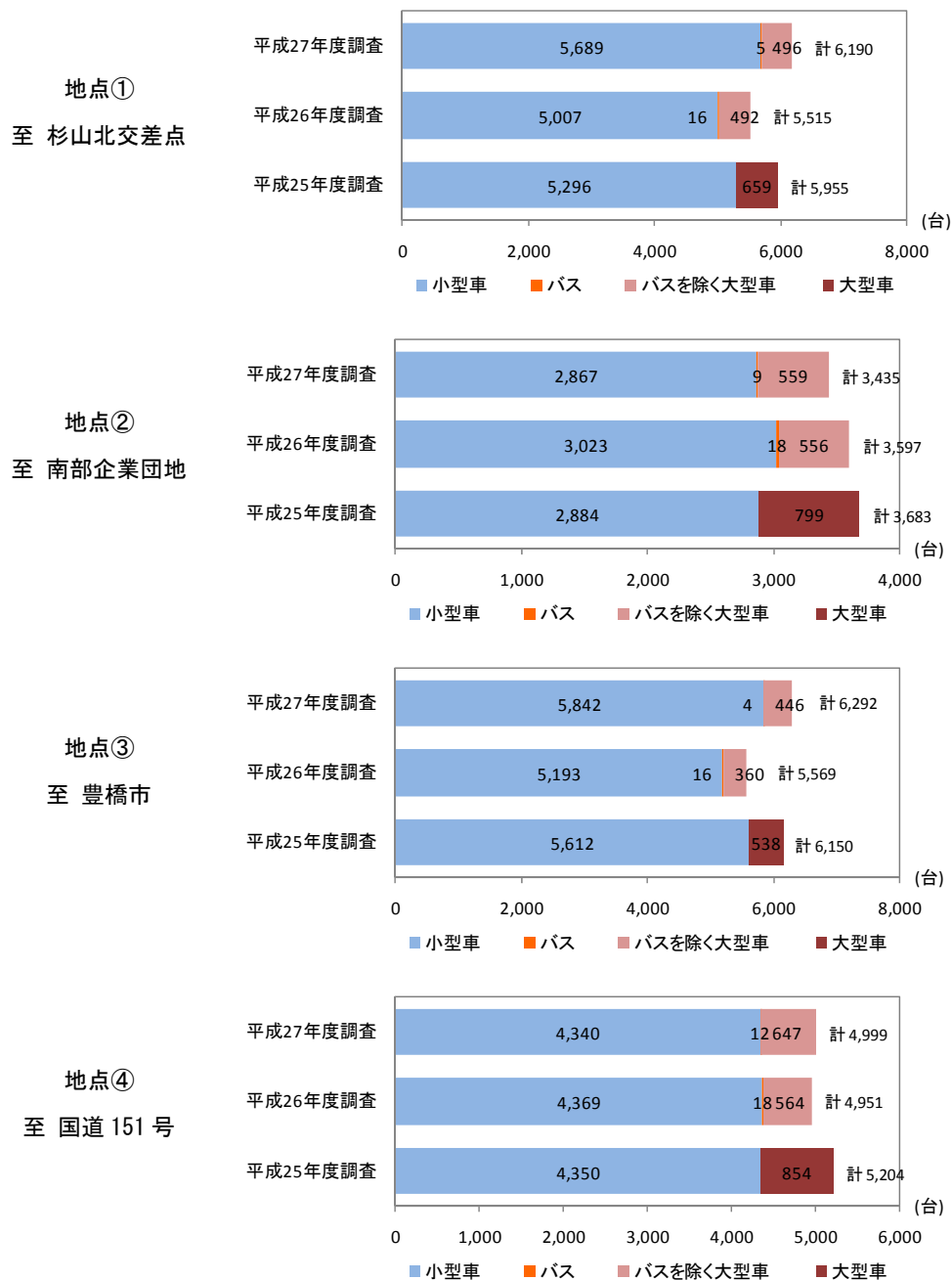
杉山北交差点方向(①)は、平成26年度は平成25年度に比べて、440台減少したが、平成27年度は平成26年度に比べて、675台増加し、平成25年度よりも多くなった。

南部企業団地方向(②)は、平成25年度から減少が続いた。

豊橋市方向(③)は、平成26年度は平成25年度に比べて、581台減少したが、平成27年度は平成26年度に比べて、723台増加し、平成25年度よりも多くなった。

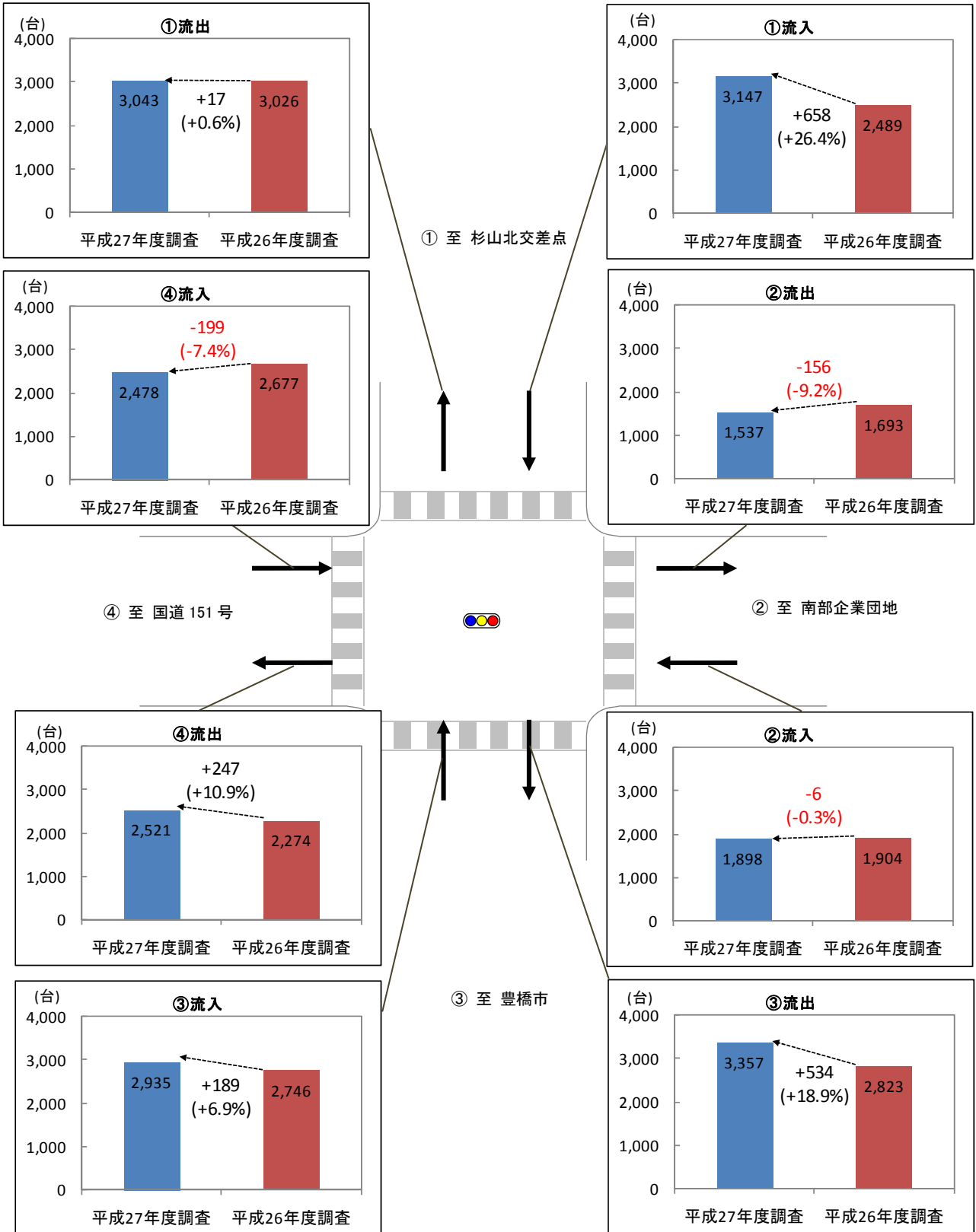
国道151号方向(④)は、平成26年度は平成25年度に比べて、253台減少し、平成27年度は平成26年度と同程度の交通量である。

バスの交通量は、方向によらず、平成27年度は平成26年度と比べて、減少した。



■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

杉山北交差点方向(①)の流入と豊橋市方向(③)の流出が大きく増加している。

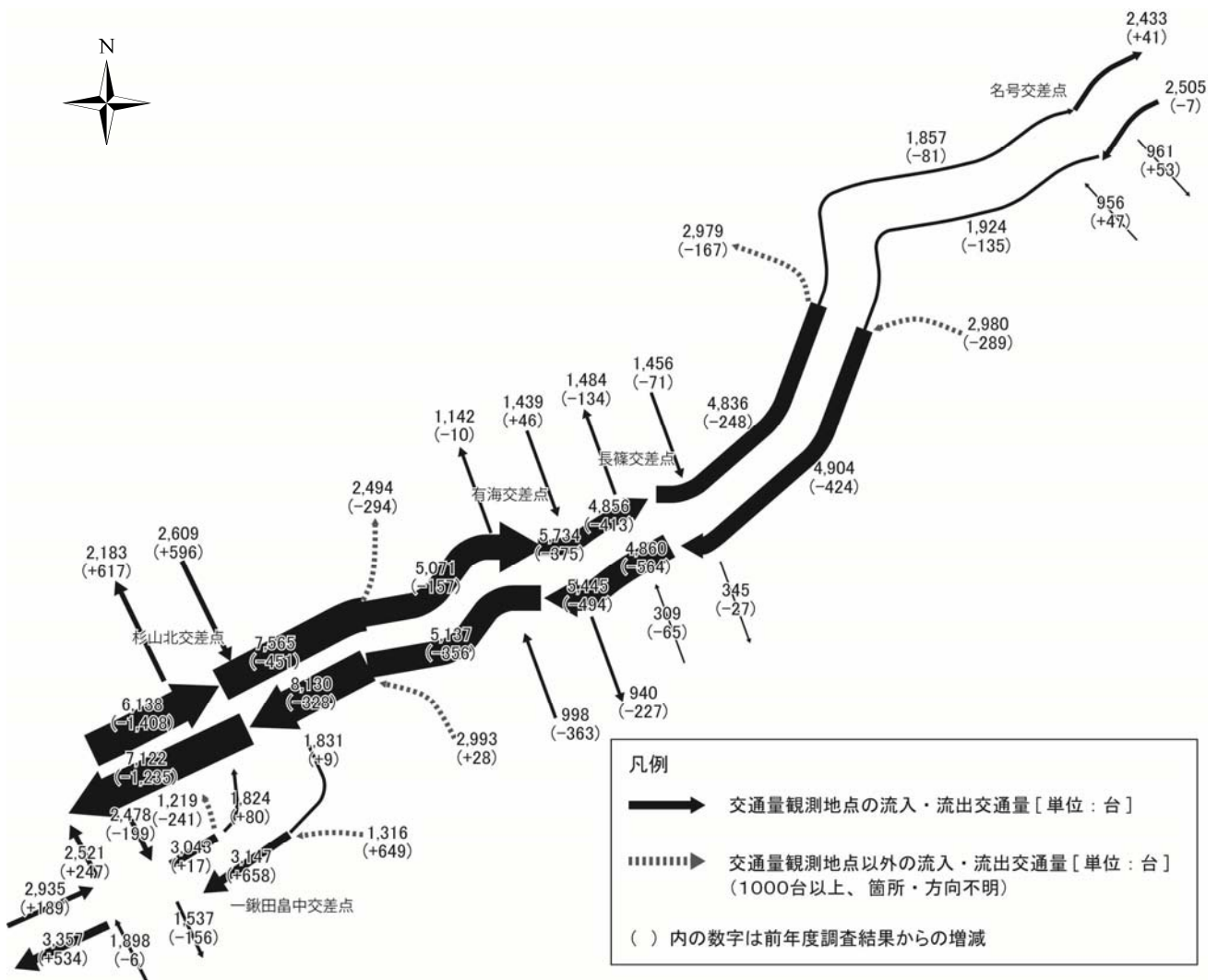


### 3. 自動車交通量全体図（12時間交通量）

#### ■ 自動車交通量

調査地点全体の交通量の調査結果を図に整理した。杉山北交差点に交通の集中がみられるものの、杉山北交差点の東方向の交通量は前年度と比較して、減少している。このことが杉山交差点以東の交通量の減少要因の一つであると考えられる。

一方で、杉山北交差点の作手地区方向への交通量が増加している。





## ■ バス交通量

バスは長篠交差点と杉山北交差点に交通量が集中した。

前年度に比べて、杉山北交差点の交通量が微減している。

名号交差点の交通量は減少していることから豊根村方面や鳳来峡 IC からのバスは減少したと考えられる。

杉山北交差点の豊川市方面から向かう交通は減少した。

また、湯谷温泉や浜松いなさ IC に向かう国道 257 号に接続する区間である、名号交差点と長篠交差点の間で国道 151 号に出入する交通量は増加している。

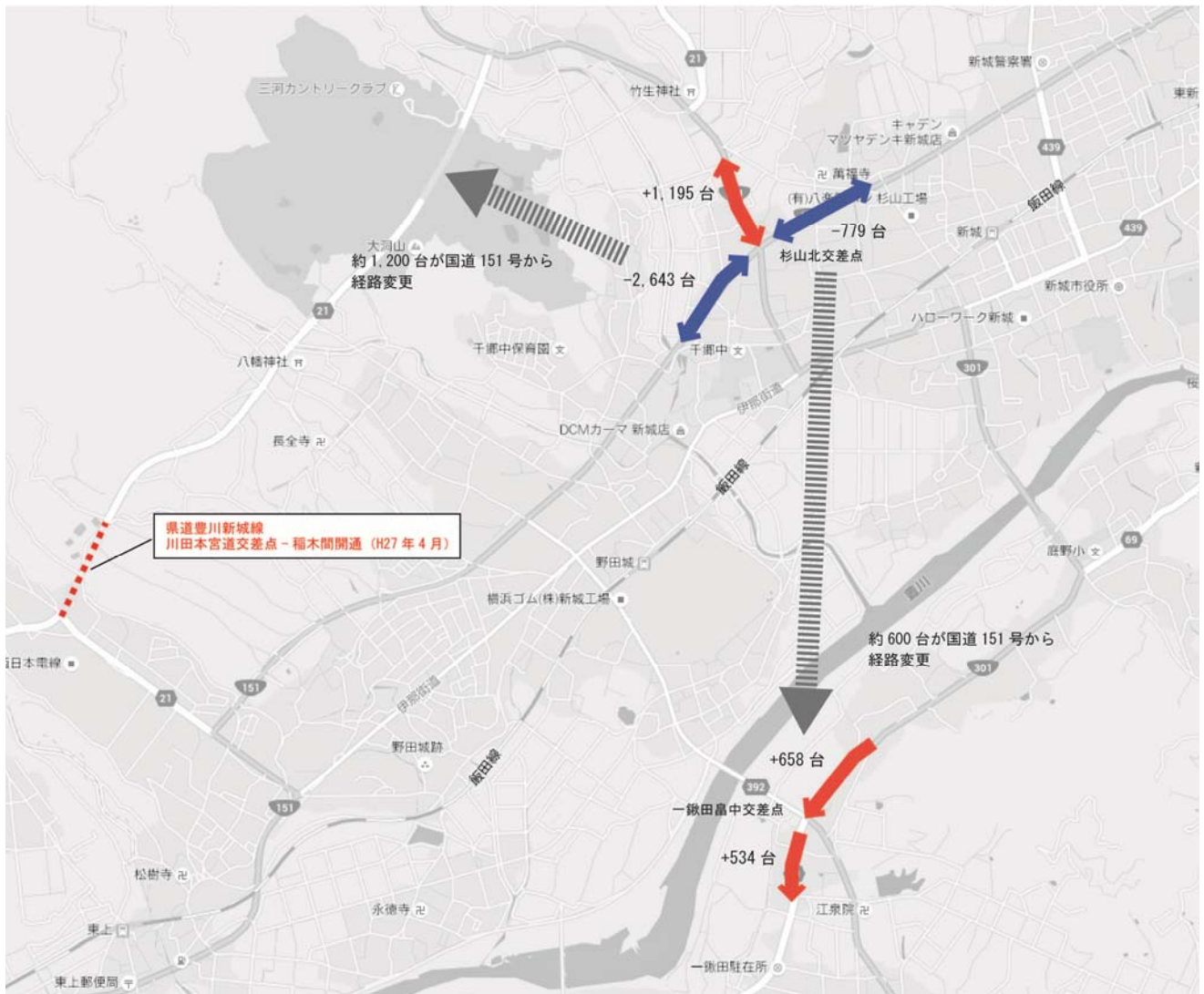


#### 4. 前年度からの交通流動の変化

地点別にみると杉山北交差点の豊川市方面の流出入交通量は前年度から2,643台大きく減少した。

平成27年4月に県道豊川新城線の川田本宮道交差点と稲木間が開通したことで、豊川市方面の交通が県道豊川新城線に流れたことが理由の一つとして考えられる。

もう一つの理由としては、杉山北交差点（国道151号）を通過せずに、一鍬田畠中交差点（国道301号）を通過して豊橋方面に向かう交通が増えたことが考えられる。



(google map より作成)

## 5. 調査結果のまとめ

### (1) 全体の傾向

- ①国道 151 号線を通る自動車交通量は平成 26 年度と比べて減少している。
- ②主に小型車の交通量が減少している。
- ③減少の理由としては、豊橋市、豊川市方面の交通のために国道 151 号を利用する自動車が減ったためだと考えられる。

### (2) 新東名高速道路及び三遠南信自動車道の利用状況

- ①名号交差点での交通量は、前年度と比べて、大きな変化がないことから、鳳来峡 IC（三遠南信自動車道）を利用する車両の数はあまり変化していないと考えられる。

### (3) バスの交通量の変化

- ①平成 26 年度と比べて、鳳来寺や湯谷温泉方面への交通は増加したと考えられる。
- ②豊根村方面や鳳来峡 IC からのバスは減少した。
- ③豊川市方面からのバスは減少した。
- ④浜松いなさ IC（新東名高速道路）と国道 257 号を使った交通が増加した可能性がある。

### (4) 経路の変化

- ①県道豊川新城線の川田本宮道交差点と稲木間の開通により、豊川市方面への交通では、県道豊川新城線を利用する自動車が増え、国道 151 号を利用する自動車は減ったと考えられる。